| 実行団体<br>事後評価報告書 | 県営保見自治区 | 活動地域 | 愛知県 豊田市 |
|---|---|---|---|

# 子どもから高齢者まで、住民が考える 多国籍団地自治プロジェクト

E-mail kenhomi@yahoo.co.jp
URL https://projetohomi.jimdofree.com/

資金分配団体名　一般財団法人 中部圏地域創造ファンド
資金分配団体事業名　NPO による協働・連携構築事業
事業の種類 草の根支援事業 2019
実施期間　2020 年 4 月～2023 年 3 月

## 1 事業概要

| | |
|---|---|
| 社会課題 | 豊田市にある県営保見住宅（1975 年に入居開始）は、約 800 世帯の内、外国籍住民が約 7 割、日本人住民が約 3 割。その中で、①ルール違反のゴミ投棄、②多様な住民が団地内で交流できる機会の不足、③自治区機能の維持の困難、という課題が存在する。 |
| 事業概要<br>対象者 | 約 800 世帯の住民に参加を促しながら、①ルール違反のゴミ投棄を減らす、②集会所・団地内で楽しめる活動を活性化する、③自治活動・自治区活動への参加を促進する、ための活動を実施する。 |
| 中長期<br>目標 | ①-1　住民がルール違反のごみ投棄をすることが減り、役員等が粗大ごみを回収する回数が減る。①-2　回収場所を作りリユースを促進する。②　住民が集会所を利用して、子ども食堂、子育てサロン、高齢者の集まり等を開催する。③-1　住民の自主的な自治活動グループができる。③-2　困りごとや地域をよくするアイデアを相談する機会ができる。事業実施を通して目指す姿は、県営保見住宅が暮らしやすい団地、楽しい団地になることである。 |
| 活動方針 | 一斉清掃や防災などの活動をコミュニケーションの場として自治区の役割を伝え、自治を担う住民が増えることを目指す。同時に、花植え活動や多世代の交流など、自主サークル的な活動を顕在化し、楽しく顔の見える関係づくりが進むことも応援する。 |

最初の子ども食堂　2020 年 10 月 16 日

七夕　2022 年 7 月 2 日

| 3 年 間 の 活 動 の 成 果 | |
|---|---|
| 高層棟ゴミステーションのルール違反の粗大ゴミ投棄 | 40%減 |
| 団地で住民が交流し、楽しめる活動プログラム数 | 15 プログラム |
| 何らかの自治活動に関わっている住民の割合 | 50% |
| 自治区活動のサポーター | 8 名 |
| 土曜日教室の子どもたちによる清掃活動 | 月 1 回 |
| 老人会と子どもたちとの交流 | 年 3 回 |
| 愛知県立大学生と子どもたちによる壁画 | 年 6 回 |

## 2 事後計画の記載内容

### 2 －1 主な活動とアウトプット　※アウトプットの目標達成時期は、断り書きがない限り、2023 年 3 月

**活動 1**　ルール違反のゴミ投棄を減らす

・ゴミ出しのルール周知状況などを棟長会議で棟長にインタビューする。役員が行っている粗大ごみの処理作業への協力を住民に呼びかけ、状況を理解してもらう。その上で、新しい方法を住民と共に考え、実行する。
・粗大ごみの状況を踏まえた上で、リユース工房につながる回収のしくみを作る。

| | | | |
|---|---|---|---|
| **アウトプット** | 住民がルール違反のゴミ投棄をすることが減り、役員等が粗大ゴミを回収する回数が減る | | |
| **指標　1-1** | ①　役員以外で粗大ごみ処理に協力した住民数　②役員が行う粗大ゴミの回収回数 | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | ①　0、②　年 10 回 | ②　10 名、②　年 0 回 | ①　10 名、②　6 回 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **アウトプット** | 県営保見自治区に、粗大ごみの回収場所をつくる | | |
| **指標　1- 2** | 粗大ゴミの回収場所 | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | なし | 1 つ | なし |

**活動 2**　集会所・団地内で楽しめる活動を活性化する

・集会所の整理整頓をする。
・集会所で行うとよい活動と（子ども食堂・子育てサロン・高齢者の集い）その整備について検討し、実行する。
・集会所の利用方法について住民同士で検討する。今まで禁止していた誕生日会などの利用を再開する。料金をとり、設備環境維持に活用できるようにする。管理者を置いて責任の所在をはっきりさせる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| **アウトプット** | 住民が集会所を利用して、子ども食堂や子育てサロン、高齢者の集まり、住民が交流できるイベント等の活動を行う | | |
| **指標　2** | 集会所貸し出し回数 | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | 0 回 | 子ども食堂（中京大）と卵配布（トルシーダ）50 回/年 | 子ども食堂と卵配布<br>2020 年度　27 回<br>2021 年度　41 回<br>2022 年度　0 回<br>（コロナ感染防止のため、2022 年 1 月 21 日以降は、UR で実施） |
| | | 子育てサロン（トルシーダ）4 回/年 | 2021 年度　1 回（中公園で実施。以降は、保見交流館等で実施） |
| | | 高齢者 12 回/年 | けやき会（老人会）　週 1 回<br>高齢者サロン（中京大）<br>2020 年度　1 回<br>2021 年度　6 回<br>2022 年度　0 回（JUNTOS が 2021 年 6 月 12 日から毎週土曜日に開催している土曜日教室と老人会がコラボして 3 回実施） |
| | | 集会所の庭の手入れや活用　50 回/年 | 集会所の庭の手入れや活用<br>2020 年度　トルシーダが中心となって、5 月 1 日以降、野菜等を栽培。週 1 回。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 上記以外の活動 | 2021 年度　コロナ感染予防のため、トルシーダの子どもたちの野菜栽培は、年度途中で中止。以後、自治区役員が中心となって、花の栽培等を継続。週 1 回。<br>2022 年度　前年度と同様。<br><br>トルシーダが実施したイベント<br>2020 年度　6 回<br>2021 年度　2 回<br>2022 年度　2 回<br><br>中京大が実施したイベント（高齢者以外）<br>2020 年度　3 回<br><br>自治区が実施した防災訓練・講座<br>2021 年度　2 回<br>2022 年度　2 回<br><br>チームが実施したイベント<br>2021 年度　2 回<br><br>JUNTOS の土曜日教室<br>2021 年度　22 回<br>（コロナ感染予防のため、2022 年 1 月 15 日以降はケアセンターほみで開催） |

## 活動３　自治活動・自治区活動への参加を促進する

・花壇づくりや朝市など、アートスペース周辺で住民が取り組めるグループ活動を試みる。
・困りごとについて相談できる環境整備について検討する話し合いを持つ。地域をよくするアイデアや困りごとについて自治区に相談できる機会をつくる。
・自治区は現在の規模、機能でできることを整理、新しい自主グループや協力してくれる住民と協力して取り組む仕組みを作る。

| | | | |
|---|---|---|---|
| **アウトプット** | 県営保見自治区に、自主的な自治活動をするグループができ、住民が参加する。 | | |
| **指標　3-1** | ①　自主的な自治活動をするグループ数　　②参加する住民数 | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | 把握なし | ①　10 団体、②　50 名 | ①　15 団体、②　50 名 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **アウトプット** | 困りごとや地域をよくするアイデアを自治区と相談する機会ができる。 | | |
| **指標　3-2** | 生活の困りごと（健康・福祉など）への対応力を高めるための勉強会等 | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | 実施していない | 年 4 回 | トルシーダが集会所等で実施した衣料配布や相談会<br>2020 年度　5 回<br>チームが実施したアンケート説明会<br>2021 年度　1 回<br><br>中京大が中心となって 2021 年 5 月に開始し、2022 年 10 月からは、ケアセンターほみとも連携するようになった「高齢者お手伝い」<br>2021 年度　32 回<br>2022 年度　21 回<br>これらの経験およびそれから得られた情報は、逐次、自治区と共有し、自治区・トルシーダ・中京大が 2023 年 4 月に設立する「保見団地センター」で、生活の困りごとに対応する体制整備に活かされている。 |

## ２－２　３年間のインプット

| | 計画値 | | 実績値 | |
|---|---|---|---|---|
| 資金 | 事業費　（自己資金含む） | | 事業費　（自己資金含む） | |
| | 直接事業費<br>管理的経費 | 5,244,000 円<br>0 円 | 直接事業費<br>管理的経費 | |
| | 評価関連経費 | 189,000 円 | 評価関連経費 | |
| 人材 | 内部：　合計 40 人（担当者 10 人）<br>外部：　合計 11 人<br>（中京大大学生 6 人、トルシーダ 5 人　） | | | |
| 資機材・その他 | パソコン・プロジェクター | | パソコン・プロジェクター・センサー付き照明 | |

### １）資金インプットの特徴、主要な支出項目

不法投棄が特に多い 25 棟のゴミステーションに、センサー付き照明を設置した。
集会所を住民交流の場として活用するために、ガスと電気の工事を実施した。
集会所がさまざまな用途に応じられるよう、パソコン、プロジェクター、スクリーンを購入した。

### ２）自己資金の種類、資金調達で工夫した点

自治区の資金を使った。
手持ちの備品を再利用し、役員でできる作業は業者に依頼せずにするなどして、経費削減に努めた。

### ３）人材インプットの役割分担等

「保見プロジェクト（中京大学)」が通 1 回の子ども食堂や週 2 回のゴミ出し放送を実施。
一斉清掃、集会所の大掃除等に中京大学学生が参加。
愛知県立大学の学生が、子どもたちと、23 棟と 24 棟の玄関に壁画を描いた。

# 3 事後評価の方針

## 3-1 評価の体制

| 外/内 | 氏名 | 所属・役職 | 評価の分野 |
|---|---|---|---|
| 内部 | 木村　友彦 | 区長 | 全体の状況把握 |
| 内部 | 藤田パウロ | 副区長 | 外国籍住民の把握 |
| 外部 | 斉藤　尚文 | 保見プロジェクト（中京大学）代表 | 現状の調査 |
| 外部 | 筒井　伸 | 将来ビジョン担当 | プロジェクトの成果の発展可能性 |

## 3-2 事後評価のポイント

| | |
|---|---|
| **1-1** | **ルール違反の粗大ゴミ投棄は減ったか。ルール違反を減らすポイントは何か。** |
| **1-2** | **粗大ゴミの回収場所とするリユース工房の設置はできたか。どんな点が難しかったか。** |
| **2** | **団地で住民が交流し、楽しめる活動プログラムは増えたか。今後、色々な住民の参加を促進するにはどうするとよいか。** |
| **3-1** | **何らかの自治活動に関わる住民は増えたか。今後増やすためにどんな工夫が必要か。** |
| **3-2** | **自治区役員が行っていた仕事のサポーターをつくることができたか。今後、担い手を増やしていく上でどんな教訓が得られたか。** |

## 4　事業の主要な成果と、それを実現した要因分析

※アウトカムの目標達成時期は、断り書きがない限り、2023 年 3 月

### 4-1-1　ルール違反の粗大ゴミ投棄は減ったか。ルール違反を減らすポイントは何か。

| | | | |
|---|---|---|---|
| **成果 1-1** | きれいな状態を維持しようとする住民が増え、高層棟のゴミステーションで粗大ゴミの不法投棄が目視で 40%以上減った | | |
| **アウトカム指標　1-1** | 25 棟ゴミステーション前の不法投棄がなくなった | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | 溢れている | 収まっている | 40%減 |
| **評価方法** | ・「不法投棄物搬入連絡票」（2018 年 4 月から 2020 年 8 月まで）に記載された不法投棄ゴミ搬出回数と比較した。<br>・不法投棄の粗大ゴミ回収を行った時の投棄の状況を写真撮影し、変化を確認した。<br>・適時。集会所等の監視カメラで、ごみステーションの状況は常に把握している。監視カメラがない場所については、住民から自治区役員に通報がある。<br>・センサー付照明設置前後の変化については、関係する住民へのヒアリングも実施した。（月曜日の燃えるゴミ分別の際に実施。聴取者 3 名）<br>・ゴミの多言語放送、動画、ちらし掲示の周知状況について、聞き取り調査を行った。（毎月第 1 日曜日の一斉清掃の際に実施。聴取者 10 名）<br>・保見プロジェクト（中京大）が、2021 年 10 月から 11 月にかけて、25 棟すべてのごみ投棄状況を調査した。調査結果は、自治区と共有し、高層棟エレベーターホールの自転車等の撤去につながった。<br>（2021 年 10 月 31 日、11 月 6 日、11 日、16 日実施、参加者：自治区 5 名、中京大：3 名） | | |

#### 1）確認できた事実

**●粗大ゴミ回収方法の変化、改善ポイントの検討**

粗大ゴミの不法投棄対策は、従来からの大きな課題である。特に、2019 年 7 月から 8 月に階段踊り場に放置された粗大ゴミに火をつける連続放火事件が発生してからは、対策は一層重要になった。2020 年 8 月までは、不法投棄された粗大ごみがたまるたびに、自治区役員が回収し、トラックでごみ処分場に運んでいた。（2018 年：11 回　トラック 22 台、2019 年：10 回　トラック 18 台、2020 年（8 月まで）：5 回　トラック 18 台）2020 年 9 月から、奇数月に、業者・県営住宅公社・自治区役員・中京大が 24 棟裏に不法投棄ゴミを集め、豊田市が手配したパッカー者が渡刈クリーンセンターまで運ぶようになり、自治区の負担は大幅に軽減した。

そこで、本事業における不法投棄の改善のポイントを運搬の担い手づくりから、不法投棄の防止と分別ルールの徹底に変更した。具体的な取組としては、

①　不法投棄の多い 25 棟のゴミステーションへのセンサー付照明の設置

②　ゴミの分別ルールを伝えるための動画作成、及びちらしの掲示

③　豊田市や豊田警察署への不法投棄の状況報告・協力の依頼

がある。各棟ベランダ下に放置されている古タイヤ等の撤去と階段踊り場等に放置されている粗大ごみの撤去は今度の課題である。前者については、17 棟のベランダ下の古タイヤ約 30 本を 2020 年 12 月にすべて撤去したが、他の棟については手付かずのままである。後者は、随時撤去してはいるが、放置されたままのものも少なくないので、前者と合わせて今後棟長たちと協議して、順次撤去していきたい。

**●センサー付照明設置とその効果**

不法投棄の状況改善の効果が明確に表れたのは、①センサー付き照明の設置であった。2022 年 4 月の写真に示したように、25 棟のゴミステーション前には、洗濯機、冷蔵庫、家具などが廃棄され続けていたが、2022 年 8 月 9 日にごみステーションにセンサー付き照明を設置して以降は、不法投棄はほぼ皆無になった。25 棟以外にも不法投棄が目立つ（県営保見団地以外の者が粗大ごみを捨てやすい）ごみステーションがあるので、センサー付き照明の増設が望まれる。

設置前（2022 年 04 月 10 日撮影）

設置後（2022 年 08 月 12 日撮影）

**●粗大ゴミ回収に協力する住民の増加**

奇数月の一斉清掃時に不法投棄ごみを回収場所に移動するため、住民に協力を呼びかけやすくなった。手伝いに関わる住民が５、６人いる他、金属回収を生業とする外国籍住民もおり、洗濯機等の粗大ごみの解体が手早く行われる状況もできた。ただし、ごみを集積してからパッカー車が搬出に来るまでの間にごみが増える（ここにおいておけば持って行ってくれると考えて粗大ごみを置く者が後を絶たない）ので、対策が必要である。

**●意識啓発の機会の増加**

入居時の資料配布や、豊田市が作成する分別ルールのちらし以外に、本事業以降に取り組んだ意識啓発活動・及びツールとしては、

・ゴミ捨てに関わる日本語・ポルトガル語・スペイン語の多言語放送（2021 年 6 月 2 日より月曜日と金曜日の可燃ごみの回収日前日夕方に放送）

・分別ルールを説明するチラシ（日本語とポルトガル語、2021 年 5 月、自治区と中京大が作成）や粗大ごみの出し方に関するちらし（やさしい日本語とポルトガル語、豊田市が作成、2023 年 1 月印刷）を全棟の掲示板に掲示（JUNTOS の土曜日教室でこどもたちが貼り付け）。同時に、facebook「保見プロジェクト（中京大学）」にアップ

・ごみの捨て方に関する動画（日本語・ポルトガル語、自治区と中京大が 2021 年 5 月に作成）

がある。

## ２）成果（課題）が生まれた要因

**●観察を元にした取り組み、住民と情報・状況の共有**

22 年 8 月に設置したセンサー付照明については、「不法投棄は夜間が多い」ので検討を始め、設置前の 5 月には、県営保見住宅敷地の全体のゴミ捨て状況を観察して、7 か所の不法投棄が多い場所を特定した。その結果、日常的にルール違反が目立ち、道路沿いで団地の印象を左右する 25 棟のゴミステー

ションにセンサー付き照明を設置した。また、設置したねらいを記したちらしを掲示板に貼った。

成果が生まれた要因について、2023 年 2 月 5 日に、自治区と保見プロジェクトの間で振り返りを持ち、

① 具体的な観察を行って優先課題の高いところから計画を立てて取り組むこと

② 課題の状況を住民と共有すること

が効果の生まれた要因だと分析した。

また、25 棟の棟長・班長らに 2022 年 12 月 12 日にヒアリングしたところ、「不法投棄ゴミが減って見た目にもきれいになったことがわかるので、『自分だけが汚くしてはいけない』と住民が感じる状況をつくることができた」という声が聞かれ、住民全体の意識に働きかける効果もあったと考えられる。

ただし、2023 年 1 月末には、25 棟階段踊り場に放置されたマットに火をつけられる事件などもあり、取り組みの強化が必要である。

**●意識啓発の多様化・日常化・自分ごと化**

ゴミ関連の多言語放送、動画やちらしの啓発ツール、JUNTOS 土曜日教室の子どもたちのゴミ拾い等は、ごみに関する住民の意識を高めている。実際、一斉清掃日以外の日にごみステーションでごみの分別をする住民は増加しており、ごみステーションの外に放置されるごみも減っている。

2022 年 1 月と 2 月の一斉清掃の参加者に聞いたところ、ゴミ出しに関する多言語放送と全棟に掲示したゴミ出しに関するチラシは、全員が知っていた。一方、facebook にアップしたゴミ動画は誰も知らなかった。コロナのため棟長会等を招集することができず、ゴミ動画を披露する機会がないからである。3 月には棟長会を開催する予定なので、ゴミ動画を披露し、分別促進と不法投棄撲滅のための意見を聞きたい。中京大の高齢者サロンや高齢者お手伝いでは、スマホの使い方を知りたいという方が多かったで、facebook 等の浸透にも努めたい。

一斉清掃に出てくる人の中では、一斉清掃に出てこない人への不満が強い。全 25 棟のうち 3 棟では、一斉清掃に欠席した人は、お金を払うことになっている。このような方法の有効性を検証するとともに、一斉清掃の後、一緒にお茶を飲んで語り合うなどの楽しみを付加することも検討したい。

### 3）気づきと今後に向けて

2019 年 6 月に設置した監視カメラでは、粗大ごみの多くが県営保見自治区以外から持ち込まれていることが判明している。こうした不法投棄の取り締まりを警察等に依頼し続けている。2023 年 1 月末には、25 棟階段踊り場に放置されたマットが燃える事件と廊下の消火器が空き部屋に散布された上、階下に捨てられ、駐車していた車が損傷する事件が続いて起こった。後者については警察が捜査に入り、UR に住む若者たちが犯人であることが突き止められた。ごみを捨てに行ってもいい場所が、悪さをしてもいい場所につながった深刻な事態であると受け止めている。不法投棄の取り締まりを実現したい。

一方、2021 年末の中京大によるゴミ調査の成果の一つは、花を植えるなど美化に努めているところにはごみを捨てない、ということである。愛知県立大学が自治区の子どもたちと共に 24 棟の玄関（2021 年）と 23 棟の玄関（2022 年）に壁画を描いた後は、両棟の玄関付近はきれいに保たれている。また、2022 年には、24 棟の住民が駐車スペースと道路を区切る部分にコスモスを植えた。こうした美化活動は今後促進していきたい。

### 4）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

**2022 年 12 月 12 日**　棟長 3 人へのインタビュー

・コスモスを植え始めたのは、9 階に住む日系人。来年は、子どもたちと一緒に植える予定。
・25 棟と 24 棟に、ごみステーションをいつもきれいにしている人がいる。
・空き缶を回収している業者がいる。
・粗大ごみを減らすには、週 1 回持ってくる機会を作るのがよい。クリーンセンターへの連絡などはこちらでやれば効果的。
・一斉清掃の時に「出れない」と連絡した人には、ゴミ袋を渡して、できるときにやってもらっている。
・一斉清掃を欠席した人から罰金を取っているのは、1 棟と 5 棟と 17 棟。1 棟と 17 棟は、一斉清掃欠席は 2000 円で、草刈り欠席は 4000 円。5 棟は、一斉清掃欠席は 3000 円で、草刈り欠席は 5000 円。
・玄関先に花を植えているのは 17 棟と 18 棟。23 棟は階段の踊り場に鉢植えの花を飾っている。

**2022 年 12 月 12 日**　18 棟のゴミステーションで自主的に分別作業をしていた方の意見
・金属ゴミを回収している人には、ごみの分別もしてほしい。

**2023 年 2 月 4 日**　JUNTOS 土曜日教室で、子どもたちが「なんでゴミ置き場がきれいじゃないのか」考えた。

・（粗大ごみを引き取ってもらうために渡刈クリーンセンターへ連絡した上でシールを購入し）シールを貼るのがめんどいから捨てている
・他の人が困ると気づいていない
・他の人が捨てるから自分も捨てていいと思っている
・きたないところだから、捨てても目立たないと思っている

**2023 年 2 月 5 日**　17 棟で一斉清掃をしていた人たちの意見。

・一斉清掃の後、一緒にお茶を飲む場所があるといい。
・ベランダにゴーヤを植えると日光を遮ることもできる。
・玄関先には、トマトだけでなく、オクラも植えたい。

### 4-1-2 粗大ゴミの回収場所とするリユース工房は設置できたか。どんな点が難しかったか。

| | | | |
|---|---|---|---|
| **成果 1-2** | リユース工房を設置し、住民に粗大ごみをリユースする意識が高まめることを目指したが、未だ調整中である | | |
| **アウトカム指標　1-2** | リユース工房に取り組む住民の数 | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | ゼロ | 協力者 30 名 | ゼロ |
| **評価方法** | リユース工房の取り組みの記録を元に、なぜ設置が難しかったかを役員会で振り返った。 | | |

**1）確認できた事実**

**●ルールの周知、設置の合意に至らず**

粗大ゴミの回収場所としてリユース工房を構想した。2020 年 10 月 11 日にソーネおおぞねのリユース工房等を視察して、これを参考に検討した。愛知県等との調整を経て、24 棟の自転車置き場をリサイクル可能な家具等の仮置き場とすることにし、2021 年 2 月 6 日に自治区役員 5 名と中京大 4 名が、仮置き場と建物の間に鉄板をはった。万が一の場合に建物に火が移るのを防ぐためである。

試験的に運用を開始し、月 1 回のチーム会議で状況を確認すると同時に、本格的運用に向けて検討を

重ねた。これらの内容は、4）に記す。

2022 年 6 月 18 日に 24 棟裏（リユース工房の前）で移動式屋台の屋根に絵を描くアートプロジェクトを開催し、その際にリユース工房にも絵を描いて、使い方を説明するチラシ（日本語とポルトガル語）を配布する予定だった。が、ここが単なる粗大ゴミ捨て場になり、捨てられたごみの撤去の手間が増えることを心配する住民の声が大きく、リユース工房に絵を描くこととチラシを配布することは断念した。

以後、facebook「Homidanchi 保見団地」等インターネット上でのブラジル人のリサイクル情報交換システムの活用・金属回収業者等との連携を模索しながら、リユース工房の再編を検討している。ただし、プロジェクト期間内は、ごみ減量自体に重点を置くこととする。

仮運用中に、単なる粗大ごみの投棄場として使用された面があるのは否めない。2 か月に 1 度の不法投棄ごみを一時的に集積する場所のすぐ近くにあるので、一層そのように利用されやすい。ただ、ここに置かれた椅子が、バス停で再利用されるなど、一定程度の成果はあった。

配布予定だったチラシの内容は、次のようなものである。

「リユース工房は、まだ使えるけれども不要になった家具を保管し、保管されている家具は欲しい人が貰える仕組みです。木製の家具のみです。希望者は、自治区に電話をし、不要な家具がまだ使用できるか判断してもらいます。許可を得たらリユース工房に家具を置いておくことができます。引き取りを希望する人は、自治区に電話をすれば、リユース工房にある家具を見学できます。欲しい家具があれば、名前・部屋番号を伝えた上で貰うことができます。」

回収の際、監督にあたる体制も計画済であった。

2021 年 2 月 6 日　リユース工房を整備

2022 年 6 月 18 日　アートプロジェクト
豊田市長と豊田市議も来訪
右奥が使用を断念したリユース工房

## ２）成果（課題）が生まれた要因

**●現場の住民との対話不足のまま、見切り発車に**

このようになった要因について、2022 年 6 月以降のチーム会議等で話し合った。自治区の役員会を通してリユース工房の事業計画の承認を得て進めたが、対象とする粗大ゴミ（木製でまだ使える家具等）の理解が定着しないまま、見切り的に始めてしまい、対象外のものも投棄されていたため、24 棟住民にこの取り組みに対する拒否的な感情を与えてしまった。

6 月 6 日の将来ビジョンに関する 24 棟住民への聞き取り、および 6 月 18 日のアートプロジェクトの際に聴取できたのは、「よくわからないものが放棄されて、ゴミの無法地帯が 24 棟にできてしまう」「役員会で決めても、そうした問題時に片付けるのは、結局 24 棟の住民の負担となる」といった声であった。

上の写真にあるように、置き場を整備したのが 2021 年 2 月、本格的な運用を開始するためにチラシを配ろうとしたのが 2022 年 6 月で、間隔があきすぎたことも反省点である。

### ３）気づきと今後に向けて

リユース工房のように、課題解決に向けてこれまでにない形の活動を始め、その試行中に混乱が生じた場合、事業企画をする側と、実際に現場となる側とは状況のとらえ方が異なることに留意する必要がある。いきなり仕組みにしてスタートせずに、回収時間や対象物を限定して地道な試行を行い、その感想を話し合って次に進める等の配慮が必要である。住民との協議から再スタートすることとなっている。

SNS での情報交換に気づいたのが成果のひとつである。Facebook「Homidanchi 保見団地」には登録者が 1600 人以上おり、不用品の譲渡を含む情報交換が活発である。このようなしくみとつながることは今後の課題である。

もうひとつの成果は、団地内に住む金属回収業者とのつながったことである。この業者に関しては、「金属を回収するだけでなく、分別に協力すべきだ」という批判的意見もあるが、金属ゴミが出された時、連絡するとすぐ回収に来てくれるなど、粗大ごみの処理に貢献している面もある。団地全体の不法投棄ゴミ撲滅とリユースの促進の観点から、このような業者とのよりよいつながりを検討することも今後の課題である。

### ４）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

**2 月 20 日　チーム会議**

・リユースは持って行ってくれる人がいない。洗濯機などは、鉄が欲しい人がばらして持っていく。

**3 月 19 日　チーム会議**

・リユース工房を設置したら、家電に興味があり解体のスキルを持つ方から問い合わせがあった。協力していきたい。集会所はルールが明文化された。
・外国人住民の不用品交換の SNS は、だれが始めたか、わからない。
・リユース工房、周知できていないため、ごみが減らない。

**4 月 24 日　チーム会議**

・ゴミ動画はベースはできている。ゴミのチラシも、もうできる。

**5 月 28 日　チーム会議**

・リユース工房についてはチラシを作成中。
・ゴミの動画は、これから音を入れる。
・不法投棄防止については、警察に被害届を出したい。

**6 月 6 日　24 棟住民へのインタビュー**

住民　外国の人はゴミ置き場だと思っている。看板があっても読まない。
住民　粗大ごみをもらう人はいない。本当は、あそこに置いてほしくない。そのうち、冷蔵庫とか置くよ。「キンブルに行けば安いよ」とみんな言っている。
PJ　団地の中で循環できるようにすれば、粗大ごみが減る。試しに挑戦させていただければと思っている。

住民　日本人でも、「あそこゴミ置き場じゃん」と言う。一斉清掃の時、撤去しようかと思った。
住民　チラシを作っても誰も見ないと思う。「なんで 24 棟にするの？」と言われた。
PJ　チラシ作って、効果を見る。1 回やってみていい？
住民　自転車を置きたいけど、ゴミと思って持っていかれるといやだから近くには置けない。
住民　隠れゴミを持ってくる。汚い椅子がある。マットも。こないだはガスレンジが 2 台あった。外国人に片付けてもらった。
住民　プラスチックの黒い袋に入れて置いていく。片づけたらコンテナがいっぱいになった。
住民　あれができて、1 年以上たつ。メリットはあった？
PJ　広報をしていない。（広場の）反対側は 2 か月に 1 回パッカー車が来る時の集積場。だから、リユースも捨ててもいいところになっている。
住民　SNS で不用品交換ができる。だから、あそこはあまり使わない。
住民　撤去できるなら撤去してほしい。片づけるのは 24 棟の人。

**6 月 26 日　チーム会議**

・移動屋台の時、リユース品集積所の絵を描こうとした。前区長が利用申請し、県は OK 出した。24 棟の住民には話が言ってなかった。賛成をいただくことが必要。

・リユース工房に関してはわたしも同じご意見をうかがった。聞いてないということだった。24 棟の住民が片付けている。「継続のために、こういうことをします」という提案も含めてうかがっていかないとむずかしいと思う。

## 4 -2 団地で住民が交流し、楽しめる活動プログラムは増えたか。今後、色々な住民の参加を促進するにはどうするとよいか。

| | | | |
|---|---|---|---|
| **成果 2** | 住民が集会所を利用して、子ども食堂や子育てサロン、高齢者の集まり、住民が交流できるイベント等の活動を行う | | |
| **アウトカム指標　2** | ①　団地で楽しめる機会が増えたと感じる住民の数<br>②　誕生日会などの集会所使用料 | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | ①　調査なし<br>②　貸出をしていない | ①　200 世帯（25%）<br>②　400,000 円（年 40 回） | ①　400 世帯（50%）<br>②　0 円 |
| **評価方法** | 実績（高齢者サロンのチラシ配布と子ども食堂の参加者数と卵配布の参加者数）に加え、12 月 12 日の棟長インタビュー、1 月 22 日の老人会日帰りツアー、2 月の一斉清掃で、30 人から聞き取り。 | | |

### 1）確認できた事実

**①団地で楽しめる機会が増えたと感じる住民の数**

高齢者サロンに関しては、70 歳以上のすべての世帯（約 150 世帯＝18%）を訪問し、参加の可否をうかがった。

子ども食堂には、2020 年度は 22 世帯、2021 年度は 41 世帯、2022 年度は 21 世帯の子どもたちが来てくれた。

子ども食堂開始時には、チラシを作成し、集団登校の集合場所で、県営保見住宅の小学生全員に配布した。

イベントのチラシは、集会所前の保見団地プロジェクトの掲示板に貼り、子ども食堂等で配布し、

facebook にアップした。

**子どもとの交流イベント**の回数と参加者数の合計は以下の取り。
2020 年度　6 回、232 人
2021 年度　4 回、 59 人
2022 年度　17 回、184 人

**高齢者向けイベント**の回数と参加者数の合計は以下の通り。
2020 年度　2 回、 5 人
2021 年度　9 回、54 人
2022 年度　3 回、18 人

**卵配布の回数と参加者数**、1 回当たりの平均人数は以下の通り。
2020 年度　36 回、1520 人、平均 42 人
2021 年度　51 回、2469 人、平均 48 人
2022 年度　43 回、1895 人、平均 44 人
（2022 年度は 2023 年 1 月 20 日まで）

以上の実績から、「少なくとも半数は知っている」と推定し、聞き取りで確認した。

２の「活動 2」に記した、集会所・中公園・25 棟のロビー（Sala de Arte=地球家族）で開催したイベントを、より詳細に記す。

**子ども食堂と卵配布**　2020 年度　27 回
（毎週金曜日の朝）　2021 年度　41 回

**けやき会**（県営保見自治区老人会　会員数 42 人）　週 1 回
2022 年度は、JUNTOS との交流会を 3 回実施
2022 年 7 月 2 日　集会所で七夕飾りつくりとゲーム
2022 年 10 月 9 日　集会所でゲームとビンゴ
2022 年 11 月 26 日　団地内のゴミ拾い

**集会所の庭の手入れ**　週 1 回

**トルシーダが実施したイベント・教室**
2020 年 5 月 9 日　地球家族で衣料品配布
2020 年 5 月 31 日　集会所でコロナ給付金申請補助と健康相談会＋地球家族で衣料品とお菓子の配布
2020 年 7 月 5 日　地球家族で七夕まつり
2020 年 10 月 17 日　ほみっこサロン（子どもの学習教室。以後、12 月 12 日まで土曜日に計 9 回開催）
2020 年 12 月 19 日　集会所でアートプロジェクト（マスクの染色）＋昼食＋ビンゴ＋庭の木にクリスマスの飾りつけ、地球家族で衣料品配布

2021 年 3 月 27 日　　集会所で「入学を祝う会」
2021 年 5 月 9 日　　集会所で「リユースワークショップ」
2021 年 8 月 22 日　　中公園子育てサロン「水遊び」
2022 年 6 月 18 日　　中公園でアートプロジェクト「屋台の屋根に絵を描く」

**中京大学が実施したイベント**

2020 年 12 月 23 日　　集会所で第 1 回高齢者サロン「風呂敷講座」
2020 年 12 月 26 日午前　集会所でボードゲーム
2020 年 12 月 26 日午後　中公園でサッカーなど
2021 日 1 日 6 日　　集会所でもちつきと防災クイズ（コロナのため規模を縮小）
2021 年 6 月 2 日　　集会所で第 2 回高齢者サロン「健康体操」（第 1 回から間隔があいたのは、コロナで中止が続いたため。この後も、メニューと日時を決め、参加者を募っても中止にせざるを得ないことが多かった。）
2021 年 6 月 5 日　　「おしゃべり会」
2021 年 10 月 2 日　　集会所で第 3 回高齢者サロン「ボードゲーム」
2021 年 10 月 27 日　　集会所で第 4 回高齢者サロン「思い出の写真」
2021 年 11 月 3 日　　集会所で第 5 回高齢者サロン「ボードゲーム」
2021 年 11 月 6 日　　集会所で第 6 回高齢者サロン「ボードゲーム」
2021 年 11 月 13 日　　集会所で第 7 回高齢者サロン「マスクケースつくり」
2021 年 11 月 17 日午前　集会所で第 8 回高齢者サロン「中京大学スポーツミュージアム、オンライン見学会」
2021 年 11 月 17 日午後　集会所で第 9 回高齢者サロン「スマホ講座」
（以後、集会所で中京大が実施する高齢者サロンは、コロナのため開催できず）

**自治区が実施した防災訓練・講座**

2021 年 7 月 25 日　　中公園で防災訓練
2021 年 12 月 12 日　　集会所で防災隊勉強会（防災隊発足）
（2022 年 1 月 16 日に開催予定だった第 2 回勉強会はコロナのため中止）
2022 年 5 月 22 日　　集会所で防災隊勉強会
2022 年 7 月 24 日　　中公園で防災訓練
2022 年 11 月 20 日　　東保見小学校グラウンドで 4 自治区合同の防災フェスタ
（県営保見自治区が幹事役、防災隊が活躍）

**チームが実施したイベント**

2021 年 3 月 7 日　　集会所でスモールビジネス講座第 1 回
2021 年 11 月 21 日　　集会所で「住民アンケート説明会」

**その他のイベント**

2022 年 11 月 27 日　　23 棟玄関で、愛知県立大学が壁画完成祝い

**集会所の整備**

2020 年 5 月 30 日　　集会所和室等の大掃除
2020 年 10 月 10 日　　トヨタ自動車 EX 会の集会所改修

| | |
|---|---|
| 2020 年 10 月 | 子ども食堂等で使用するガス栓を集会所大会議室に設置 |
| 2020 年 11 月 | 子ども食堂等で使用するため、集会所大会議室で使用できる電気のアンペア数を上げる工事 |
| 2020 年 12 月 20 日 | 集会所大掃除（自治区役員の他、中京大が参加） |
| 2021 年 12 月 26 日 | 集会所大掃除（自治区役員の他、中京大と JUNTOS スタッフが参加） |
| 2022 年 12 月 25 日 | 集会所大掃除（自治区役員の他、中京大と JUNTOS スタッフが参加） |

「愛知県の新型コロナ感染者数が 1000 人を上回ったら集会所の貸し出しを停止する」と通知しておいた。自治区には、70 歳以上の高齢者が 150 人以上おり、感染防止に努めることが自治区の責任だからである。このため、2021 年末以降、子ども食堂など多くの事業の実施場所を集会所以外に移してもらわざるを得なかった。それでも、老人会や野外で実施するイベントを開催することができた。保見団地プロジェクトを構成する実行団体や愛知県立大学などの協力に感謝したい。

**②誕生日会などの集会所使用料**

2021 年に、集会所使用料や使用団体の登録など、集会所使用規則を明文化した。が、同年末にコロナ感染状況が悪化したため、集会所使用料収入は目標値に達しなかった。集会所使用を促進するために、使用規則を見直すと同時に、集会所以外の場所を使ったイベント等の活動を促進したい。

2021 年 11 月 21 日　アンケート結果説明会

2022 年 12 月 25 日　大掃除の後の昼食

## ２）成果（課題）が生まれた要因

「開かれた自治区」を心掛けたことが大きいと考えている。県営住宅としてのきまりや慣例を優先し、「管理」を最優先していたら、続けられない事業も多かった。

例えば、

子ども食堂の際に集会所台所のガスホースを焦がした
JUNTOS 土曜日教室の子どもが清掃用具を壊した
JUNTOS スタッフが集会所会議室のドアを壊した
などである。他にも窓の施錠忘れ、電気の消し忘れなど、があった。自治区役員たちが集会所の管理にどれほど気を使っているか、わかってもらえないことに失望することもあった。

管理上問題のある事態が生じるたびに、はっきりと注意を促しつつも、住民のために集会所等を使用することを優先させた。結果として、チームを構成する実行団体や愛知県立大学等との信頼関係を深めることができた。

イベント等に参加した住民からの喜びと感謝の声が支えになった。

### 3）気づきと今後に向けて

「開かれた団地」にすることの意義を今後も意識していきたい。自治区役員会は、区費の徴収・駐車場の管理・ゴミ出し規則の順守等、管理的な業務に忙殺されている。保見団地の 4 自治区の中でも、県営保見自治区の規模は際立って大きい。県営の次に規模が大きな公団の 2 倍近くある上、公団は自治区とは別に建物の管理組合が 2 棟から 3 棟にひとつある。県営保見自治区は、こうした管理組合の業務も担っている。

「よそ者」の関与は、自治区の業務軽減も含めて、県営保見自治区全体の生活環境を向上させることができる。ただし、自治区にとって望ましい「よそ者」であるかどうかは、慎重に判断する必要がある。プロジェクトの 3 年間の経験では、判断基準は、一斉清掃や庭の手入れなど、住民のために時間とエネルギーを使うかどうか、である。

今後は、2023 年 4 月に設立される「保見団地センター」の活動に期待したい。

### 4）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

**12 月 12 日　棟長インタビュー**

・県営は規模が大きすぎる。
・分断は日本人と外国人との間だけにあるのではない。

**1 月 22 日　老人会日帰りツアーでの聞き取り**

・若者が老人会に参加してくれるのはうれしい。
・子どもたちと交流し、子どもたちの喜ぶ顔を見られたのはよかった。（老人会は、JUNTOS 土曜日教室の子どもたちとの交流のプログラムを用意するだけでなく、おみやげまでくださった。）

**2 月 5 日　一斉清掃で、30 人から聞き取り。**

・集会所ではいつも役員たちが忙しそうにしているので、気軽に集まれる場所が欲しい。
・卵を受け取るために、フォックスマートまで行くのは遠すぎる。早く、配布場所を集会所に戻してほしい。
・17 棟ベランダ下の古タイヤ等を撤去したことで、ちょっと動けば生活環境がよくなることがわかった。これからは、自分にもできることがあれば協力したい。

## 4-3-1 何らかの自治活動に関わる住民は増えたか。今後増やすためにどんな工夫が必要か。

| 成果 3-1 | 県営保見自治区に、自主的な自治活動をするグループができ、住民が参加する | | |
|---|---|---|---|
| アウトカム指標　3-1 | 何らかの自治活動に関わっている住民の割合 | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | 調査なし | 200 世帯（25%） | 400 世帯（50%） |
| 評価方法 | 12 月 12 日の棟長インタビュー、1 月 22 日の老人会日帰りツアー、2 月の一斉清掃で、30 人から聞き取り。 | | |

### １）確認できた事実

12 月から 2 月にかけて、3 回、一斉清掃への参加者数を棟ごとに聞いた。割合に差はあるが、平均すれば、少なくとも半数は、ほぼ毎回参加している。

確認できた自主活動グループのうち、本プロジェクトがきっかけとなって成立したものを列記する。

**子育てサロン**：トルシーダがサポートして誕生した。県営保見自治区で実施した事業は、初期の打ち合わせや 2021 年の「水遊びイベント」のみだが、2021 年からこのグループが核となって保見団地全体でハロウィン・イベントを実施するなど、存在感を増している。

**防災隊**：2021 年 12 月 12 日に発足した。この時は、外国籍住民が積極的に発言した。コロナ禍のため、なかなか集まる機会を持つことができないが、2022 年 5 月 22 日には、勉強会を開催し、同年 11 月 20 日の保見 4 自治区合同の防災フェスタで活躍した。災害時の緊急救援者リストの作成や震災の際の家具転倒防止器具の設置促進など、今後の活動に期待している。

**JUNTOS**：中京大学、愛知県立大学、愛知淑徳大学の学生たちが中心となって設立された。2021 年 4 月と 5 月の保見団地プロジェクト・チーム会議の議を経て、「若者たちの自主的な活動を活かすため、保見団地プロジェクトとは別の団体」として、活動することになった。2021 年 6 月から保見団地の子どもたちを対象とした「土曜日教室」を毎週土曜日午前中に開催している。「保護者たちの『日本語を学びたい』という強い願いがあったので、2022 年 3 月からは、土曜日午後に、大人向け日本語教室と子どもの個別学習教室を開催している。2022 年 1 月以降、コロナ感染防止のため、ケアセンターほみで開催しているが、老人会イベントへの参加、県営保見自治区内のゴミ拾い、ゴミ分別チラシの全棟への貼り付け、中公園でのスポーツ大会、地球家族でのカポエイラなど、県営保見自治区とのつながりも保持している。

2022 年 6 月 4 日　JUNTOS が中公園で開催したスポーツ大会

2022 年 11 月 20 日　防災隊が活躍した保見 4 自治区合同の防災フェスタ（東保見小学校グラウンド）

### ２）成果（課題）が生まれた要因

保見団地プロジェクト全体の働きかけが大きい。なんらかのきっかけがあれば、自治活動に加わる住民が少なくないということだ。例えば老人会は、2021 年度までは中京大が開催する高齢者サロンに参加する側だったが、2022 年度は老人会が JUNTOS 土曜日教室の子どもたちを招くようになった。学生たちが、毎年 9 月の敬老の日の記念品配布を自治区役員と共に行ったり、毎週金曜日の卵配布と子ども食堂で高齢者に顔を合わせたり、一斉清掃に加わったりして、住民との信頼関係を気づいてきた成果でもあると思う。

さらに、保見団地プロジェクトから生まれた JUNTOS は、現在土曜日教室の会場としているケアセン

ターほみと県営保見団地とのきずなももたらした。ケアセンターが社会福祉協議会や地域包括センターとつないで、団地に暮らす高齢者が、介護保険制度を利用するようになった例も生まれている。

「開かれた団地」をめざしてきた成果だと考えている。

### 3）気づきと今後に向けて

外部からの働きかけが有効であることと、そのためには時として忍耐と辛抱も必要であることがわかった。ゴミ、防災、高齢化は、依然として重要な課題である。保見団地プロジェクトでかかわりを深めた団体を信頼して、すべてを自治区で背負ってしまわないよう心掛けたい。

県営保見自治区の状況を、他の地区の人たちに知らせる機会が増えたことにも触れておきたい。

2023 年 1 月 17 日、1 月 26 日、2 月 7 日の 3 日間、保見中学校で「保見団地ダストボックスペイントワークショップ」が開催された。地域会議が立案したゴミステーションのダストボックスに絵を描くプロジェクトであり、保見団地プロジェクトの前身である「保見アートプロジェクト」の続編でもある。この第 1 回で、県営保見自治区長として、保見団地のゴミ事情について、中学生に直接話す機会を得た。開かれた自治区をさらに開き、地域全体で保見団地の課題に取り組む機会を得られたと感謝している。

### 4）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

**12 月 12 日　棟長インタビュー**

・25 棟前にコスモスを植えたのは、9 階に住む日系人。来年は、子どもたちと一緒に植える予定。
・グループというほどではないが、17 棟、18 棟、23 棟には、玄関先に花を植えたり、踊り場に鉢植えを置いたりする人がいる。

**1 月 22 日　老人会日帰りツアー**

・若者たちとおしゃべりするのは楽しい。中京大学の学生にゴミ出しなどの高齢者サービスを頼むのは、学生とおしゃべりしたいという理由もある。
・これからは、孫のような土曜日教室のこどもたちと交流する機会を増やしたい。
・昨年 11 月の子どもたちのゴミ拾いの時には、子どもの親たちも来て、3 世代交流になった。

**2 月 5 日　一斉清掃**

・花だけでなく、ベランダにゴーヤを植えて日よけにしたり、北側の窓の下にミニトマトやオクラを植えたりしたい。

## 4-3-2 困りごとや地域をよくするアイデアを自治区と相談する機会ができたか。

| 成果 3-2 | 困りごとや地域をよくするアイデアを自治区と相談する機会ができる | | |
|---|---|---|---|
| アウトカム指標　3-2 | 相談する機会の回数 | | |
| | 初期値 | 目標値 | 実績 |
| | ゼロ | 5 回 | 6 回 |
| 評価方法 | 実績 | | |

### 1）確認できた事実

「指標　3-2」に記したように、保見団地プロジェクトは、自治区役員が直接相談に応じる機会だけで 6 回、2021 年 5 月に始まった「高齢者お手伝い」を含めればその 10 倍近くの困りごとに対応することができた。具体的には次のとおりである。

**トルシーダが実施した衣料配布や相談会**

| | |
|---|---|
| 2020 年 5 月 9 日 | 25 棟のロビー（Sala de Aute＝地球家族）で衣料頒布会 |
| 2020 年 5 月 31 日 | 集会所で給付金申請手伝いと健康相談会。地球広場で衣類とお菓子配布 |
| 2020 年 7 月 5 日 | 地球家族で七夕祭りと食材配布（自治区運営等についてインタビュー） |
| 2020 年 12 月 19 日 | 集会所でマスクに絵を描くアートプロジェクト。昼食、ビンゴ付。クリスマス飾りと衣類配布は地球広場で |
| 2021 年 3 月 27 日 | 入学を祝う会 |

**チームが実施した住民アンケート結果説明会**

2021 年 11 月 21 日　集会所で

中京大が中心となって 2021 年 5 月に開始し、2022 年 10 月からは、ケアセンターほみとも連携するようになった「高齢者お手伝い」

2021 年度　32 回

2022 年度　21 回

多かったのは、ワクチン予約接種、ゴミ出し、買い物の付き添い。

これらの経験およびそれから得られた情報は、自治区・トルシーダ・中京大が 2023 年 4 月に設立する「保見団地センター」で、生活の困りごとに対応する体制整備に活かしている。

2020 年 5 月 31 日
給付金申請手伝いと健康相談会

2020 年 12 月 19 日
保見アートプロジェクト：手作りマスクを作ろう

## 2）成果（課題）が生まれた要因

保見団地プロジェクトがすべてである。文字通り「伴走」し続け、イベントはもちろん各種の打ち合わせ等の際にも集会所に足を運んでくれた資金提供団体に負うところも大きい。

## 3）気づきと今後に向けて

自治区へなにか言いに来る人は、どうしても「苦情」に偏ってしまう。アンケート結果の住民説明会のような気軽に意見を言える機会が重要である。

### 4）成果を表すエピソード・参加者の声・データ等

**2020 年 7 月 5 日　七夕祭り**

・今日は、外国籍居住者だけでなく、日本国籍のご高齢の方もいらしてくださった。この PJ の目的にピッタリ！

**2021 年 11 月 21 日　アンケート説明会**

・1 番目につくのはゴミの問題。よそから持ってくる人もいる。多分夜中に持ってくる。
・外国人の方で仕事がなくて、鉄くず集めをしている人もいる。そういう人が片付けているから、以前より、冷蔵庫とか掃除機とかは、以前よりは少なくなっている。
・LED の街路灯を設置すれば、不法投棄が少なくなるんじゃないかと思う。防犯灯を兼ねて。
・わたしらの棟は、外国人の方も月 1 回の分別の日に 90%は出席。木材関係は壊してコンテナに入れる。
・引っ越していかれるときは、不用品を売っていかれる。昔から聞いている。「20 万で買った」とか。
・シールを貼って電話をすれば片付けてくれるということを、ポルトガル語で書いて、1 軒ずつ配布する。日本人はわかっている。
・ゴミのルールに関して。ラインが止まって失業した人が、公団から県営に流れてくる。公団とのルールの違いに対応できない。
・災害時は、逃げ惑うだけになってしまう。有事の際の体制作りが必要。
・迷惑行為について同じ棟の人間が指摘するとトラブルになってしまう。
・違法駐車を防止するために、うちの棟ではチェーンに鍵をつけている。
・中京大の方にワクチン予約してもらったのが助かった。
・自分の子どもをフォックスに遊びに行かせるのが心配。自分が子どもの頃はそんな心配はなかった。古くなった・若い人が少ない・交流がない、ので不安。
・組長をしている。蛍光灯・水漏れ・駐車場の相談が多い。四六時中連絡がある。
・回覧版はなかなか回らない。空き部屋が多いから回さないフロアもある。いろんなことに組長は対応しなければならない。区費の取り立てはむずかしい。隣近所のことなので。
・子ども向けのイベントをきっかけに、自治区の活動に参加してもらえるといいのかと思った。
・こういう話し合いはもっとやってほしい。

## 5 特筆すべき成果
### ～予測していなかった成果、副次的な効果、注目すべきエピソード等～

### 5-1　民生委員以外の形での相談活動の存在

2020 年 7 月から、トルシーダが毎週金曜日の朝に、卵を配布するようになった。同年 9 月からは保見プロジェクト（中京大学）もこれに参加し、10 月には子ども食堂を開始した。毎週継続することで、国籍や年代を超えた住民同士の交流と住民とプロジェクトメンバーとの信頼関係が生まれた。そして、困りごとについて相談が寄せられるようになった。2021 年 10 月から、同じ時間帯に同じ場所で不定期に開催するようになった、コーヒーサービスによって、交流は一段と促進した。今では、他の住民のために食材等を提供したり、プロジェクトメンバーのために食べ物や温かい飲み物を差し入れてくださる方もいる。

自治区や民生委員制度とは別の形で、気軽に相談できる機会を増やし、そこと自治区がつながることが重要だと確認できた。

### 5-2　おしゃべりや小さなお手伝いを通した生活課題の発見

高齢者サロンから派生して、出前型のお手伝いをする活動「高齢者お手伝い」が生まれ、それがさらにケアセンターほみの「助け合い」活動につながった。今後は、ケアセンターほみや福祉イノベーションセンターなど民間の福祉団体・社会福祉協議会・豊田市福祉部などと連携し、豊田市の包括的支援体制整備事業を使って、保見団地のさまざまな生活課題に取り組んでいく予定である。

ちょっとしたお手伝い等を行いながら、信頼できる関係をつくり、気軽なおしゃべりの中で何気なく出てくる困りごとに対応する、といった相談機能の作り方もあることがわかった。こうした相談機能は、公的な福祉機関では持つことが困難であり、かつ、このようにして見えてくる困りごとに取り組んでいこうというのが、包括的支援体制整備事業である。

このような取り組みを始める中で、週 1 回の老人会の集まりが、高齢者の安否確認機能を有していることにも気づくことができた。

上記 2 つの「相談活動」を保見団地センターに引継ぎ、国籍や性別にかかわらず、子どもから高齢者まで安心して暮らせる保見団地にしていきたい。

# 6．協働・連携による課題解決の体制の充実

## 6-1　チーム内の協働・連携

### 1）チーム内で協力した内容

B0：愛知県県営住宅自治会連絡協議会、　B２：トルシーダ　B3：保見プロジェクト（中京大）
B４：外国人との共生を考える会

**（1）コロナ 10 万円交付金に関する相談会**

| 協力活動の項目 | B0 | B2 | B3 | B4 | 協力した内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 広報 | | ● | | | チラシの作成及び配布 |
| 内容的な連携 | | ● | | | イベント内容の立案・準備 |
| 作業面の手伝い | ● | ● | ● | ● | 会場のセッティングと片付け。来場者の誘導 |
| その他 | | | | | |

**協力による効果**

申請用紙が郵送された直後だったこともあってか、来場者は 160 人に上った。（うち、給付金の相談をしたのは 98 人。）チームメンバーの手伝いもあって、集会所での給付金の相談会と健康相談会とは別に、地球広場でお菓子と衣料品の配布をし、来場者を分散させることができた。また、アンケートを取って、コロナが日々の暮らしに及ぼす影響を聞き取り、その後のプロジェクトでの取り組みに活かすことができた。コロナが問題になって以降の仕事についての回答では、「以前と変わらない」13 人、「仕事がない」46 人、「残業がない」37 人、「仕事の日数や時間が減っている」15 人であった。失業保険の手続きの相談もあり、コロナの影響の深刻さをうかがわせた。また、ポルトガル語を使っていても読み書きが不自由な人が少なくないこともわかった。健康相談会で看護師 2 名が対応したのは 18 名。血圧が高い人が多かったが、ほとんどの人が「大丈夫」と言っていた。健康保険未加入の人はいなかった一方で、介護保険を知っている人は皆無だった。

**（2）自治区集会所の片づけ・交流の場としての整備**

| 協力活動の項目 | B0 | B2 | B3 | B4 | 協力した内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 広報 | | | | | 特に広報はしていない |
| 内容的な連携 | | ● | ● | | 卵配布や子ども食堂に使うため、ガス管等の整備をした |
| 作業面の手伝い | | ● | ● | | 和室の片づけ。年末の大掃除 |
| その他 | | ● | ● | | トヨタ自動車 EX 会による会議室の整備 |

**協力による効果**

集会所を住民が使いやすくなった。また、年末の大掃除には若者たちが手伝うのが恒例となり、終了後に昼食を用意して、交流することができた。

**（3）ルール違反のゴミを減らす**

| 協力活動の項目 | B0 | B2 | B3 | B4 | 協力した内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 広報 | | ● | ● | ● | ごみに関する情報提供、ちらしや SNS での周知 |
| 内容的な連携 | | ● | ● | | センサー付き照明設置準備。保見中学校でのダストボックスに絵を描くワークショップの準備 |
| 作業面の手伝い | | ● | | | 一斉清掃や不法投棄ゴミ回収 |
| その他 | | ● | | | ゴミ放送 |

**協力による効果**
粗大ごみが不法に投棄されるたびに腹が立つ。月 1 回の一斉清掃に出ない人がいることや、ごみステーションにゴミ袋をきちんと入れない人がいることや、分別をしない人が少なくないこともストレスである。そのような中で、共に対策を考えてくれる団体がいることは、たいへん心強い。2021 年 6 月 2 日に始まった週 2 回のゴミ放送も、日常的にごみ等について語り合う機会になっている。ごみ問題は改善の方向に向かってはいるが、まだまだ先は長いと覚悟している。今後も連携して取り組んでいきたい。

### 2）自団体の貢献と体制整備

**（1）自団体がチーム対して行った協力内容、その効果と評価**

卵配布、子ども食堂他、他団体が開催する事業への会場の提供。集会所脇に設置したプロジェクトの掲示板。
コロナ感染拡大により集会所の使用を中断するまで、自治区が管理する施設がプロジェクトの事業実施場所であった。施設の鍵の開け閉め等を他団体の都合のあわせてしなければならないなど、苦労も少なくなかったが、多くの時間を他団体と共にすごすことにより、団体ごとの立場や保見団地の課題に取り組む姿勢の違いを超えて、これからも協力し合える関係を築くことができた。

**（2）自団体の体制整備、知見やノウハウの蓄積についての変化・成果と評価**

2020 年 10 月 18 日の棟長会議で、「保見プロジェクト（中京大学）」が保見団地プロジェクトについて説明した際、「よそ者・若者・ばか者」ということばを使った。「よそから来た若くて地元のことを何も知らない者だからこそできることがある」という意味で、市民活動等ではよく使われるフレーズらしい。が、自治区役員たちにも棟長たちにも、まったくうけなかった。
自治区と他団体が生きてきた世界は、それほど違っていた。当然、認識を共有するのは容易ではなかったし、対立することもあった。保見団地プロジェクトという枠があり、資金提供団体の支援があったからこそ、協力関係が途切れなかったとさえ言えるかもしれない。
あきらめずに辛抱強く協力関係を保持する中から、大きな成果を上げることができただけでなく、「保見団地センター」で事業を一層充実させる希望を得ることもできた。さらに、2022 年 3 月に中京大学を卒業した若者が、同年 9 月から自治区の役員になり、自治体制の強化に貢献してくれている。
「よそ者・若者・ばか者」と辛抱強く付き合うノウハウを身に着け、そのパワーを得たことが、最大の成果だと考えている。

## 6-2　支援対象者・参加者の参加促進、関係の形成

| （1）ルール違反のゴミを減らす | | | |
|---|---|---|---|
| 知っている | 参加してくれる | 少しお手伝い | 自発的・主体的参加 |
| 80% | 50% | 10% | 10 人 |

**変化・成果**
2023 年 1 月と 2 月の一斉清掃の際に、30 名から聞き取り調査をした。一斉清掃に参加している人からの聞き取りなので、数値が高めかも知れない。が、2020 年末のアンケート調査、および 2021 年のアンケート調査結果説明会の時より大幅に改善していることを確認できた。ゴミ放送、ゴミ分別に関するちらしの掲示等にかけたエネルギーに比べるとものたりない感もあるが、次の 4 点の観察結果と整合しており、大きな成果をあげることができたと考えている。

① 不法投棄される粗大ごみが減った。
② 不法投棄の多くは自治区以外からの持ち込みである。
③ 一斉清掃以外の日に、ゴミ分別等をする住民が増えた。
④ 一斉清掃に出てくる人たちが増え、雰囲気がなごやかになった。

**変化・成果（課題）が生まれた要因、評価**

ゴミ放送を週 2 回実施し、ゴミ分別に関するチラシを 2 回掲示し、土曜日に子どもたちがゴミ拾いをした効果である。ただし、すでに記したように、18 棟ゴミステーションへの粗大ごみの廃棄、高層棟の踊り場への粗大ゴミ放置、不法投棄物を一時的に保管する場所への粗大ゴミ廃棄等は、依然として深刻な問題である。住民や保見団地センターのメンバーと協議を続け、一層の改善を目指したい。

**（2）自主的な防災活動**

| 知っている | 参加してくれる | 少しお手伝い | 自発的・主体的参加 |
|---|---|---|---|
| 30% | 10% | 40 人 | 10 人 |

**変化・成果**

2 回の防災隊の集い、年 1 回の防災訓練、および 2023 年 1 月と 2 月の一斉清掃の際の 30 名からの聞き取り調査にもとづいて集計した。防災訓練は毎年実施しており、多数の参加者がいるが、コロナ禍で防災隊の活動を予定していたように推進することができなかったため、数値の低さはやむをえないと考えている。しかし、防災意識の向上は顕著である。

**変化・成果（課題）が生まれた要因、評価**

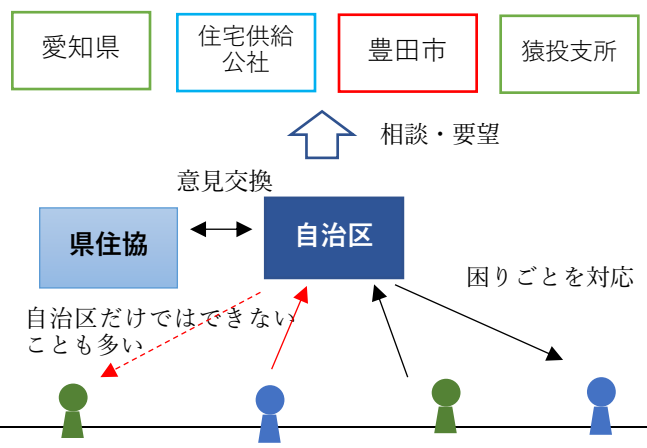
防災隊結成の呼びかけを折に触れて行い、年 1 回の防災訓練に加え、保見団地 4 自治区合同の防災フェスタの幹事として 2022 年に取り組んだことが大きい。ヘルメット等非常時の備品、転倒防止器具の普及など、予定していながらコロナ禍で推進できなかったこともあるが、新型コロナ感染状況が改善すれば、すぐにでも着手できる体制は整っている。非常食の搬入などに自治区以外のチームメンバーの協力を得られたことも、今後の進展への希望となっている。

## 6-3　課題解決に取り組む協力関係の変化

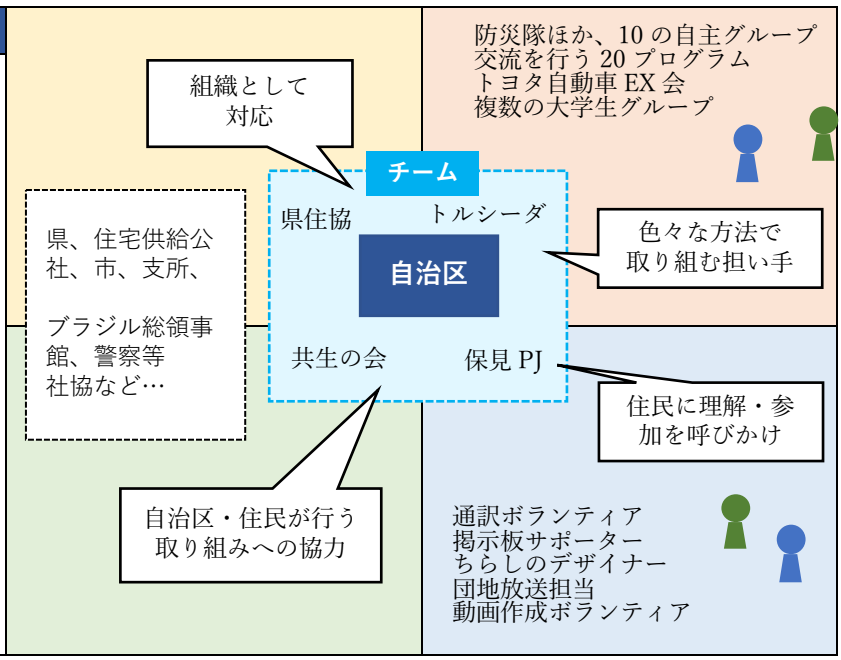
### 1）協力関係構築の実績

**本事業前の関係**

生活ルールを守らないことからくる問題の解決は、主に自治区に寄せられ、少数の役員が直接解決に当たるか、住宅供給公社や行政に相談・要望を行って解決することが多かった。



| 事業を通してできた関係 |
| --- |
| チームを組んで取り組んだことで、行政組織に対して、直接の要望以外に、不法投棄ゴミの注意の仕方など情報や知恵を出し合って協力する場面が増えた。<br><br>住民との関係については、チームのネットワークを活かして、通訳、デザイン、動画づくり等を担う人材が発掘でき、住民に積極的に理解・参加を呼びかけられる体制が強化できた。また、一斉清掃のような自治区のイベントにチームメンバーが参加することで、よりよい雰囲気を作り出すことができた。 |




| 事業を通してできた関係 | | | |
| --- | --- | --- | --- |
| 他の実行団体との関係については、これまで記してきたとおりである。ここでは、チーム会議に参加してくれた機関、および関係者会議等がつないでくれた機関について記す。 | 1 | 愛知県県営住宅管理室 | 管理面での連携・助言 |
| | 2 | 豊田市<br>国際まちづくり推進課 | ゴミ分別、他の地域の県営住宅の状況等に関する情報提供 |
| | 3 | 豊田市消防本部 | 防災訓練および防災隊勉強会 |
| | 4 | 豊田市社会福祉協議会 | 高齢者サロンでの講師 |
| | 5 | トヨタ自動車 | EX 会の集会所整備等への協力 |
| | 6 | 愛知県警察本部<br>豊田警察署 | 団地の安全のための取り組み |

### 2）協力関係を構築する上で行った工夫、評価

愛知県県営住宅管理室と豊田市国際まちづくり推進課は、チーム会議だけでなく、各種打合せや協議にもたびたび足を運んでくださり、チームの一員同様にプロジェクトに貢献してくれた。他の機関も、必要に応じて、こころよく協力してくださっている。チーム会議や関係者会議を定期的に開催し、プロジェクトの進捗状況を説明してきたからこそ生まれた関係であると思う。

# ７．結論、今後の展望、教訓

## ７-１　結論：中長期アウトカムに対する本事業の妥当性

| （ゴミ団地の返上＋集会所やグラウンドでの交流＋自治グループ＋自治区）によって、保見団地が、住みやすい団地、楽しい団地になっている | | | |
|---|---|---|---|
| 事業実施プロセス | ★★★★ | 事業成果の達成度 | ★★★ |

★★★★★　想定した水準以上にある　　★★★★　想定した水準にある　★★★　想定した水準にあるが、一部改善点が必要
★★　想定した水準に達するのに改善が必要　　★多くの改善の余地がある

**●上記のように結論を出した理由**

事業実施プロセス
プロセスとしては、ほぼ予定通りに進行し、他の実行団体や関連機関とプロジェクト終了後も続く連携を築けたことで、「想定通り」とした。

事業成果の達成度
達成度は、大きな成果を上げることができたが、コロナ禍のため自治区の施設を計画通り使用できなかったことと、リユース工房の計画を中断せざるを得なかったことで、「一部改善点が必要」とした。ただし、JUNTOS の活躍、愛知県立大学による 23 棟と 24 棟の玄関の壁画制作、若い自治区役員の獲得、アーティストの指導によって保見中学校の生徒がダストボックスに絵を描いたことなど、計画にはなかった成果を上げることができたことは、他の実行団体や関連機関への感謝を込めて、指摘しておきたい。

## ７-２　今後の取り組み

2023 年 4 月に「トルシーダ」「保見プロジェクト（中京大学)」とともに、「保見団地センター」を設立する。これまでのプロジェクトの事業を引継ぎ、「子どもから高齢者まで、住民が考える多国籍団地自治」を一層進展させたい。

## ７-３　事業から得た知見、類似する課題に取り組む団体等に役立つ教訓

「保見団地」はしばしば新聞等でとりあげられる。その多くは、「放火」等の犯罪・もめごとであり、保見団地の 4 自治区の中で、「県営保見団地」に焦点が当てられている。結果として、「県営はこわいところ」というイメージを多くの人に与えている。
2019 年度の保見アートプロジェクトと 2020 年度からの本プロジェクトは、新聞やテレビで紹介される機会も多く、「多文化共生の先進地」として、県営保見団地が紹介されるようになった。
「よそ者」と時間をかけて信頼関係を築くことが、なによりも重要であると考えている。

## ８．資料等

① 「多文化多様性が輝く保見団地」をめざした住民アンケート調査報告書
② 同報告書概要版
③ 保見団地将来ビジョンブック（未定稿）
④ 加藤康太郎・山田　健人　2022『県営保見住宅のゴミ放置状況』（2021 年度卒業論文、中京大学現代社会学部斉藤ゼミ）
⑤ 曽我　悠人・松尾　咲希＜他＞　2023『新聞記事からみる保見団地』（2022 年度卒業論文、中京大学現代社会学部斉藤ゼミ）